

EU Indicators

欧州経済指標コメント：9月ユーロ圏消費者物価(速報)

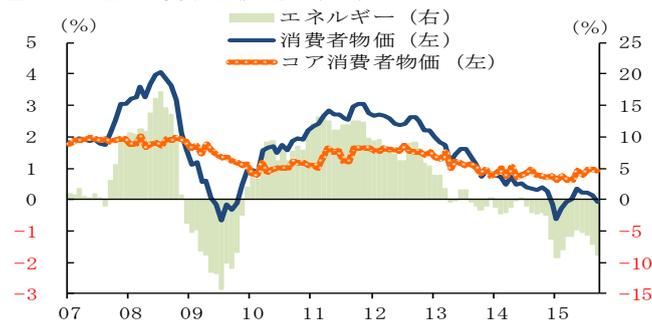
発表日：2015年9月30日(水)

～警戒信号が再点灯～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

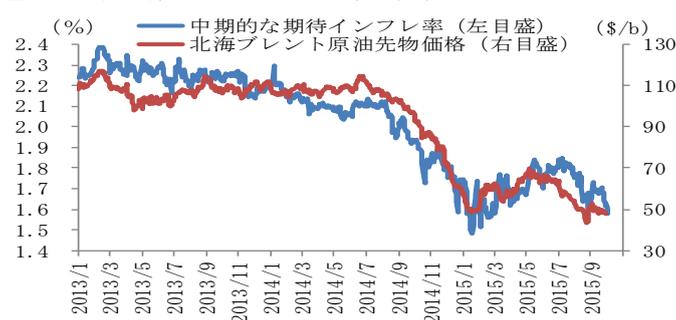
- 9月のユーロ圏の消費者物価の速報値は前年比▲0.1%と3月以来のマイナス圏に再転落した(前月は同+0.1%)。夏場以降の原油安定着を受け、エネルギー価格の下落率が拡大したことで(8月：同▲7.2%→9月：同▲8.9%)、全体の計数を押し下げた。コア物価(食料、アルコール飲料、たばこ、エネルギーを除く総合)は同+0.9%と前月と同じ上昇率にとどまった。但し、四捨五入前では同+0.94%→同+0.90%と上昇率がやや鈍化した。
- 発表済みの国別の9月の消費者物価(ベルギーを除いてEU統一基準)は、ドイツが同+0.1%→同▲0.2%、スペインが同▲0.5%→同▲1.2%、イタリアが同+0.4%→同+0.2%と何れも全体の計数を押し下げた一方で、ベルギーが同+0.9%→同+1.1%と上昇率が小幅加速した。各国ともにエネルギー価格の下落率拡大が物価を下押しした模様。ただ、最低賃金の引き上げや労働需給が引き締まっているドイツですら物価の上昇圧力は観察されず、エネルギー要因を除いても物価の基調は弱々しい。
- 中国不安が燦るなかで原油市況の低迷が続いており、ユーロ圏の消費者物価を押し下げている。スワップ金利から計算した中期的な期待インフレ率は9月末にかけて1.5%台後半に低下。ECBが国債購入を含む本格的な量的緩和を決定した1月初中旬の1.5%台前半に再接近している。物価の一時的なマイナス転落だけではECBが追加緩和を決定する決定打とはならないが、コア物価の基調が弱いなか、中期的な期待インフレ率の下方屈折が再び始まりつつあり、こちらは警戒信号を発している。

■ユーロ圏：消費者物価(前年比)



注：コア物価は食料・タバコ・アルコール・エネルギー除く
 出所：Eurostat

■ユーロ圏：期待インフレ率と原油相場



注：期待インフレ率は5年先5年物スワップ金利より計算
 出所：Bloombergより第一生命経済研究所が作成

■ユーロ圏の消費者物価(%)

	2014				2015								
	4Q	1Q	2Q	3Q	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
消費者物価 (前期比)	-0.2	-0.3	0.5	-	0.3	0.2	0.1	0.3	0.0	0.0	-0.1	-	
消費者物価 (前年比)	0.2	-0.3	0.2	0.1	-0.3	-0.1	0.0	0.3	0.2	0.2	0.1	-0.1	
コア消費者物価 (前年比)	0.7	0.7	0.8	0.9	0.7	0.6	0.6	0.9	0.8	1.0	0.9	0.9	
食料/アルコール/たばこ (前年比)	0.3	0.3	1.1	1.2	0.5	0.6	1.0	1.2	1.1	0.9	1.3	1.4	
食料 (前年比)	-0.2	-0.1	0.8	-	0.1	0.3	0.6	0.9	0.8	0.5	1.0	-	
アルコール (前年比)	1.5	0.8	0.8	-	0.8	0.7	0.8	0.7	1.0	0.8	0.8	-	
たばこ (前年比)	2.6	2.6	3.1	-	2.8	2.8	3.0	3.1	3.2	3.5	3.5	-	
エネルギー (前年比)	-3.6	-7.7	-5.3	-7.2	-7.9	-6.0	-5.8	-4.8	-5.1	-5.6	-7.2	-8.9	

注：消費者物価の前期比は季節調整後。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。